

## 無涯塾師範「年頭所感」

明けましておめでとうございます。

今年も老体に鞭打って居合道に精進致します。

居合道は趣味の域から脱し、自己探究の基もとに昇華できればと思います。

来年は「無涯塾」創立 10 周年の節目の年に当たります。

全剣連居合道七段になってから既に 17 年を過ぎ、未だ居合道の入り口辺りに居りますが、全力で精武鍛錬し「無涯塾」を更に発展させたいものであります。

塾生の皆さん、今年はずっと稽古をしなければなりません。

武道（居合道）の成果は「稽古の量に比例する」と言っても過言ではありません。

居合の錬度によってその稽古の仕方も量も違いますが、

業の基本は、「強」であり、「正」、「大」であると考えております。

即ち、「強く」、「正しく」、「大きく」であります。この三つを地道にとことん練磨すれば、「速く」、「軽く」の二つは、自然に手の内や体捌たいさげきが出来てきます。

禅語で「解行双修げぎょうそうしゅう」と言う言葉があります。これは、理を学んで実際行ってみて、実技で行詰まってまた学び、の繰り返しひたすらが大事ということです。（事理一致）

先生の話真剣に聞いて、或は解説書を読んで実践し、疑問に突き当たったらまた教を請う態度が進歩の早道です。疑問が起こる稽古をしましょう。

従って、日頃の稽古は勿論、講習会や練成会には進んで参加してください。

— 継続は力なり —

自分は教え受けた、九段・八段範士の先生方のお心に感謝し乍稽古をして居ります。

最後に、仁（思いやり・仁愛）

義（人として行う道）

礼（社会秩序を正す）

智（理解し判断する力）

信（誠・嘘を言わない）

は、武士道精神であるが、その前に一般社会人としてこれらを忘れないでおきたいと思ひます。